

「いじめとぼうりょく」

新居浜市立宮西小学校 5年 加藤 海咲

私は3年生の時友達とケンカをして、その友達と仲が悪いこともあり、友達のことを裏で悪口など言い、人を傷つけてしまいました。やった時は特に考えずに傷つけてしまいました。先生や親におこられて、自分がやった事に深く反省しました。あやまっても許されない事をして、私が言う事では無いかもしれないかもしれないけれど、とても後悔しました。

ニュースで、SNSなどに、大人数でぼう力をふるう動画が、かく散されて、炎上しているニュースを見ました。その時、3年生の頃の自分を思い出して、ぼう力をしている人と自分が重なって見えてしまい、何だか複雑な気持ちになりました。また、その悲しいニュースを見て、こういった事が身近なところで起きてしまっていたらどうしようと思いました。

私は今、友達と仲良く過ごすことが出来ていると感じています。ですが、他の人はどうか分かりません。なので、私はもし、傷ついている人がいたら、その人を助けられる存在になりたいと思っています。それでも小学生一人で、変えられる事は限られてはいますが、自分の出来る事を、よく考えて行動していきたいです。また、「だいじょうぶ？」と声をかけるだけでも、言われた側の人の心が軽くなることや、他にも人の気持ちによりそう事が、どういう事を、お母さんや、お父さんに教えてもらったり、本を読むなどして知りました。大人数でぼう力を受けるなど、いじめられている側は、どうして自分が理不尽にぼう力を受けなければならないのか、周りの人にも止めてくれないのか、そんな気持ちでとても怖い思いをしています。いじめている側は、相手がやり返さないとってどんどんいじめがエスカレートしていく事もあります。その中で被害者は日に日に学校に行きたくなくなると思いました。もし被害者が私だったら不登校になってしまおうと思います。それだけではなく、大人になっても、人を信じれなくなる事もあると思います。

毎年いじめや、ぼう力などが原因で不登校や、自殺をする事を選ぶ人がいます。そして、その人数は年々増えています。周りの人が気づいていないだけで、いじめが起こっている場合もあるので、実際には、もっとたくさん傷ついている人がいるのかもしれない。

私が、以前してしまった事は、何をやっても変わりません。そして、傷つけてしまった人もその時の悲しかった時間を取り戻すことはできません。なので、今私が住んでいる、町や県や国、世界でも、いじめなどの悲しい事が起きてほしくないと思っています。大人が気づかないことや、気づかないふりをしたり、大人同士で、ぼう力などのケンカに発展することも少なくありません。また、大人の

ケンカの場合は、大人は力が強いこともあり場合によっては、けい察が入らないといけないほど危なくなります。それもふまえて私はいじめやぼう力はとても怖いことだと思います。

私は小学校で、生活をしている中で、今思っている事は、気が強い子だけが、自由に出来ていたり逆に少し気が弱い子や、おとなしい性格の子が、その気が強い子などに、したがっていたり、言う事を聞いている印象があります。今の世の中も、怖かったり、気が強い人などが思うように行動したりしているイメージがあるので、もし目の前でそのような事が起きていたら、「それはちがうんじゃない」などと言えるような人でありたいです。

「新居浜市を明るくするあいさつ」

新居浜市立宮西小学校 6年 岸 理心

六年生になった私の朝は、校門の前に立つことから始まります。今、私は「あいさつ運動」に全力で取り組んでいます。しかし、実は五年生までの私は、あいさつをすることがとても苦手でした。自分から声をかけるのがはずかしくて、いつも下を向いて通り過ぎてしまうような、そんなひかえめな性格だったのです。六年生になり、最高学年としての責任感が芽生え、「自分を変えたい」という思いを持って、あいさつ運動に参加することを決めました。最初は、勇気をふりしぼって出した小さな声もきんちょうでふるえたかもしれません。それでも、地域の方々に「おはようございます！」と声をかけ続けてみました。活動をはじめて気づいたのは、世の中には色々な人がいるということです。私の目を見て、とびきりの笑顔で「おはよう！」と返してくれる人がいる一方で、中には無表情で通り過ぎたり、こちらを見向きもしなかったりする人もいました。正直に言うと、最初はとてもショックでした。せっかく勇気を出したのに、無視されてしまったような気がして、心の中が「モヤモヤ」とした暗い気持ちでいっぱいになったこともあります。しかし、このモヤモヤこそが私にあいさつの本当の意味を、教えてくれました。私はなぜ、悲しい気持ちになったのか。それは、相手からの「お返し」を期待してしまっていたからです。そこで私は、考え方を試してみることになりました。あいさつは、相手から返事をもらうための取引ではなく、自分から地域の人たちへ届ける「心のプレゼント」なのだと気付いたのです。返事をしてくれない人も、もしかしたら急いでいて、心の余裕がなかったのかもしれない。あるいは、昔の私と同じように、あいさつをするのがはずかしくて、タイミングをのがしてしまっただけかもしれません。そう考えると、返事があってもなくても、まずは「自分が勇気を出して、相手を思う、言葉を届けられたこと」にかちがあるのだと思えるようになりました。勇気を出してあいさつをした後、相手がふと笑顔を見せてくれた時、私はこの上ない達成感を感じます。あいさつは、ほんのいっしゅんのやり取りですが、ギスギスした空気を、いっしゅんで変えるまほうのような力を持っています。この、小さな一歩が私の町を少しずつ温かくしていくのだと信じています。今の私は、あいさつが苦手だったころの自分とは、ちがいます。「あいさつをしてよかった」と心から思えるようになったことは、私にとって、この小学校生活で、一番大きな成長であり、自信につながる一歩となりました。

これからも、たとえ心が折れそうになることがあっても、私はあきらめません。まずは、自分から勇気を出せたこと、自分自身でしっかりと、ほめてあげたいと思います。そして、私のトレードマークである「笑顔」を絶やさず、町中に笑顔

のプレゼントをくばり続けたいです。あいさつの運動を通して見つけた、この大切な力を、中学校へ行っても、その先の未来でも、ずっとわすれずに、持ち続けていこうと決意しています。

「新居浜を明るくするためにできること」

新居浜市立金栄小学校 5年 柿本 健太

私の住む町は、愛媛県新居浜市です。人口は約十一万人の瀬戸内海と四国山地が連なる、海と山に囲まれた自然ゆたかな町です。大人や子どもも、高れいの人、動物たちも安心して明るくくらせる町にするために、わたしは何ができるか考えてみました。

わたしは、通学路に落ちているごみについて考えました。毎日登下校する道は、車が多い大通りの歩道です。大人も子どもも、高れいの人、動物も使っています。その通学路には、たばこやナイロンごみ、ペットボトル、お酒の缶などが捨てられています。時々、犬のふんを片付けずそのままにしている飼い主もいます。ごみを見ると「町がきたないな」と暗い気持ちになります。花が咲いているところに平気でペットボトルが捨てられているのを見ると「花がかわいそうだな」と思います。

わたしは、日曜日の夕方家族でごみ拾いをしたことがあります。理由は、月曜日、気持ちよく登校したかったからです。そして、ごみのない道は気持ちを明るくしてくれるからです。季節によってごみの種類はちがいます。夏はジュースのペットボトルが多く、冬は、マスクやティッシュなどが多いです。そして、一年中変わらずに多いごみは、たばこです。たばこは拾い続けても減りません。車道の側面に捨てられたのかなと想像すると、怖いと思います。歩道に捨てられているたばこは、自転車や歩きたばこの人が捨てているのかなと想像しました。たばこは、火が付いたまま捨てると、とてもあぶないです。道路ぞいには住宅だけでなく緑ゆたかな自然があります。地域の人たちは火のついたたばこを捨てられると安心してくれないし、山火事になると動物の命や人の命まで失われてしまいます。

わたしは、ごみのない町が、新居浜市を明るくすると思います。通学路にあるごみステーションに、カラスがごみをあさりにきてごみがさんらんしていることもあります。ごみ出しも、一人一人がそういうことも想像して動くことが大切だと思います。夜のうちにごみを出さないことや、ごみぶくろをきちんとしばってカラスがかんたんにつつかないように工夫したり、あみをしっかりおおうことをわすれないようにしたりして、気を付けることが大事だと思います。明るい街には落ちているごみも少ないと思います。

自分たちの住む町がよくなるということは、相手の気持ちを考えて行動することや自分の行いがどうえいきょうするのかを考えることなのではないかということに気付きました。明るい町づくりのために、わたしができることをこれからも考えていきたいです。

「新居浜市について」

新居浜市立金栄小学校 5年 吉村 史織

私は、新居浜を明るくするため、過ごしやすくするために、身近な人へのあいさつ、まちのイベントやちいきのつながりに、一人一人が参加して、声をかけあうことや、市内約二百か所にせっちされている「げんきスポット」を利用して、たくさんの人々とふれあえる場を作ればいいのではないかなと思いました。

理由は、あいさつでは、たくさんの人とふれあうことで、未来の新居浜市が、ひとりぼっちがいない、友達いっぱいのにじまんの新居浜市ができると思ったからです。

まちのイベントやちいきのつながりに、一人一人が参加して、声をかけあうことは、自分たちが大人になったときに、

「ここで参加しといてよかった。」

「いろんなことが分かりやすい。」

と、思ったり、ちいきもはってんでできるかもしれないと思ったからです。

市内約二百か所にせっちされている「げんきスポット」を利用し、たくさんの人とふれあえる場を作ろうと思ったのはなぜかというと、高齢者がいたり、体の不自由な人などは、「げんきスポット」に行くとげんきになったり、

「こんなことにもがんばろう。」

「ここに通ってよかった。」

と、思うかもしれないと思ったからです。

また、私が大人になったときにどんな新居浜市であれば、住み続けたいかというと、ごみもなく、清潔で、災害が少なく、自然などがあふれるまちだと住み続けたいと思います。

なぜかというと、JR 新居浜駅があつたりイオンモール、あかがねミュージアム、旧広瀬邸、市民文化センターなどがあるので、大人にとっても、子どもにとっても安心できるからです。

また、昔の人がやってきたことを伝えたり、教えたりするイベントもやると、たくさんの人が知ってくれると思ったし、何より、また受け継いでいってくれると思ったからです。

新居浜市は、「Hello! NEW 新居浜」だから、「新しいチカラに、つながりを豊かさに」というキャッチフレーズを受け継ぎ、これからも新しいチカラに、つながりを豊かさにして、もっともっと新居浜を明るくするために、がんばっていきたいと思いました。

「犯罪のない新居浜」

新居浜市立金子小学校 6年 山下 直太郎

ぼくは、一度優しさのある地域の人に助けられました。小学二年生の頃、友達の家遊びに行った帰り道、ぼくは迷子になってしまいました。その時、地域の人は、ぼくを近くの店に連れて行き、お母さんと呼んでくれたのです。迷子で困っていたぼくは助かりました。ぼくは、心が暖かくなり新居浜の地域の人とはとても優しいのだなと思いました。

最近、嫌なニュースばかりです。とても嫌な気持ちになります。殺人事件、強盗、薬物、詐欺、などがテレビからとても聞こえてきます。そうするとそれがどんどん広がって、新居浜市にも、その波が来るかもしれません。その波を一人で止めようとしても波に飲み込まれてしまいます。しかし、地域の方々が協力して、みんなの心が一つになった瞬間にその波は、マジックのように消えてなくなります。その波を「まだ来ないからいいか。」や、「警察がなんとかしてくれる。」など人任せにしてはダメです。他の県の国民たちが作った犯罪の大きな波は、今でもどんどん力を増して、とっても大きくなっています。それをとめるには、ぼくたちの協力と大きな団結力が必要だと思います。そのためには地域とのつながりがとても大切だと考えます。誰とでも仲良くし、ぼくが迷子になった時に助けてくれたように、人の役に立つようなことをどんどん進んで自分からやっていくことが大切です。そのような人たちが増えると、その地域の団結力は大きな壁になり、犯罪を防ぐことができるでしょう。そして、犯罪のない世界を実現することも不可能ではなくなるでしょう。一人ひとりが犯罪に気をつけ、見つけたら注意し、誘われたらきっぱり断る。このようなことを大事にして「平和な世界」を作っていきたいです。

将来、犯罪、非行の数は増えるかもしれないし減っているかもしれません。未来は誰にも分かりません。しかし、犯罪の少ない未来のためにぼくたちができることはたくさんあるのではないのでしょうか。

「協力で町はつくられる」

新居浜市立金子小学校 6年 上田 悠太

ぼくは、学校や家庭で「協力」という言葉が一日に一回はどこかで聞こえます。先生も家族も友達もそして、ぼく自身も「協力」という言葉をよく使うと思います。少なくともぼく自身はそうです。

ぼくは、交通事故の瞬間を見たことがあります。とても大きなバイクが信号を見ていなくて車と衝突した事故です。幸いにも大きな怪我にはなりませんでした。その事故を見て「とてもカッコいいな。」と思いました。それは、手紙を運んでいる途中の郵便局員でした。事故の現場を見るとすぐに車を道路の端に置き、110番に電話をしました。そしてバイクの人に「大丈夫ですか。」と声をかけました。周りにいた人も「大丈夫だった。」と声をかけていました。五分ぐらいたつと警察官の人たちが来て、スムーズに話が済み、この事故が一件落着で終わりました。この事故を改めて考えると、数々の「協力」があったと考えました。あんなに急に起きたことを、冷静になり、この事故を一件落着にした大人たちがとてもカッコいいなと思いました。あの事故は、一生忘れません。

ぼくは、時々公共バスに乗ります。そこには、いつも車いすの方が乗っています。そこで、降りる時にも「協力」があると考えています。そして、笑顔もいっぱいあると考えます。

車いすの人が、入った瞬間に空気が凍りついたようになりました。階段が登りにくいので運転手が板のようなものを出し登れるようにしました。周りの乗客は、ちらちら見ていました。車いすの人は何か落ち着かない様子でした。そして、その凍りついた空気を破ったのは、一人の若い男の人でした。車いすの人が降りる時に、

「手伝いましょうか。」

と言ったのです。すると、車いすの人は、とても笑顔になりました。自然に乗客も笑顔になりました。さらにぼくも笑顔になり、運転手も笑顔になりました。とても幸せな時間でした。

この体験で分かったことは、「協力」はされた側もした側も笑顔になるだけでなく、周りの人まで笑顔になることを知りました。

「協力」をするメリットがこの体験を通じてとても良く分かりました。これからも「協力」をしていきたいです。

「笑顔であふれる新居浜にするために」

新居浜市立金子小学校 6年 青野 ななみ

世の中から犯罪を減らし、明るい未来を築くことはとても難しいことだと思います。わたしは、これまで犯罪について

「こわいな。」

「どうしてこんなことが起きたのかな。」

としか思っておらず、どうしたら犯罪を減らせるのかは考えていませんでした。

しかし、犯罪を減らしていくことだけではなく、犯罪を犯してしまった人の立ち直りも大切だと思います。なぜなら、犯罪は強いうらみ、時にはほんの少しの出来心から起こしてしまうこともあります。そして、起こしたことの重大さに後悔してしまい、立ち直れない人がいたり、また犯罪を犯してしまったりする人もいるかもしれないからです。それを見て、他の人も影響してしまうかもしれません。

わたしは、犯罪を犯してしまった人が立ち直るには、周りの人達のやさしさが大切だと思います。社会にもどった人達を周りの人が温かく接することで、その人も人の目を気にしながら過ごすのではなく、安心してくらすことができると思います。そのためにも、日ごろからあいさつをしたり、困っている人がいたら助けたりすることができるような町であることが大切だと思います。わたしは、新居浜市は犯罪が多いと感じていますが、それ以上に、地域の人達のやさしさの温かさも感じています。

わたしは、どんな人がいても、温かくむかえ入れることで、明るい新居浜市にすることにつながると 생각합니다。進んであいさつをしたり、困っている人がいたら親切に助けたりすることはだれにでもできることなので、わたしも取り組んでいきたいと思っています。

周りの人達が温かく接することは、とても強いうらみをいただく人を減らせると思います。それに、うらみを減らせば、犯罪を減らし、新居浜市を明るくすることができると 생각합니다。

わたしは、あいさつや、困っている人がいたら助けるという行動の他にも、自分にできることはたくさんあると思います。例えば、

「ありがとう。」

などの感謝の心を常に持ち、伝えていくことなどがあります。

わたしはこれから、自分にできることをもっと考えて、だれにでもやさしく接することができるように行動したいです。また、新居浜市を明るくすることにつながられるように、新居浜市で過ごす一員としてほこりを持ち、行動していきたいと思っています。

「理想の楽しいまち」

新居浜市立高津小学校 5年 渡邊 結衣奈

理想の楽しいまちは、どんなまちだろう。住みたくないまちは、どんなまちだろう。私が思う理想のまちは、ゴミのポイ捨てがなかったり、子どもが遊べるところがたくさんあったり、すれちがった人とあいさつをしたり…そんなまちがいい。反対に、住みたくないまちは、治安が悪かったり、いじめが多かったり、みんなの笑顔がないまち。そんなまちには、だれも住みたくない。だから、新居浜は犯罪やそういうことがない楽しいまちにしたい。

私は、友達の家遊びに行っているときにポイ捨てをしているのを見たことがある。ポイ捨てしていたのはコーヒーのカン。落ちた時にまだコーヒーが残っていて、飛び散っていたようだった。私はどうすることもできないまま、その場を通り過ぎてしまった。帰り道もそのカンが転がっていて、何だかいやな気持ちになった。そういうときは、どうしたらいいのだろう。どうしたらマナーやルール違反のポイ捨てなどがなくなるのだろう。理想のまちがいいのに、そんなことが起きると、まちがきたなって悪くなる。だから、ポイ捨てやまちがきたなくなったり悪くなったりすることを減らしたい。みんなで声をかけ合って、ポイ捨てゼロのまちにしたい。

そして楽しいまちにするには、仲良くしないといけない。今、世界では戦争や差別が起こっていて、笑顔で過ごしている人が減ってきているように思う。もし、公園に行ったらみんなで遊んだり、だれかを一人にさせたりしないようにしたい。そうすると、小さな子どもからお年寄りまで、みんながきっと笑顔になると思う。

そして、すれちがった人にあいさつをする。知らない人にもあいさつをしたら、きっとこのまちがもっと明るくなる。そして、悪いことをする人や犯罪も減ると思う。

だから、ポイ捨てをしない。友達がしていたら注意する。

いじめをしない。いじめをしたら楽しくないまちになってしまう。

あいさつをする。知らない人でもあいさつをする。わたしたちのまちが明るくなる。

これが私が決めた私への約束です。みんなと礼ぎやマナー、ルールを守って、平等で犯罪のない、楽しいまちにしたい。新居浜がもっともっと明るくなるとうれしいし、もっとみんなが笑顔になったらうれしいです。

自分は絶対に、ポイ捨て、いじめをしません。みんなにやさしくしたいし、たくさんあいさつをします。

「新居浜市を明るくするためにできること」

新居浜市立高津小学校 6年 松木 美空

私は、新居浜市を明るくするためにできることとして、次の二つを考えました。

まず最初に思い浮かんだのは「あいさつ」です。あいさつは、その場の空気をパッと明るくし、あたたかくするものだと思うからです。私は、登下校中、人とすれ違うときには、必ずあいさつをしています。私があいさつをすると、笑顔で「おはよう！ いってらっしゃい」や「おかえり」と返してくれる人がたくさんいます。その一方で、「あ…」と言いながら無視して通り過ぎる人もいます。これを受け、私は、こう考えました。あいさつを返してくれない人にこそ、自らあいさつをし続けてあいさつの輪を広げたいと。自分から積極的にあいさつをすることで、新居浜市にあいさつの輪がどんどん広がってほしいと思いました。

次に考えたことは、ボランティアに参加することです。最近、海のゴミ拾いや花植えなどのボランティア活動ができる機会が多くあります。これらのボランティア活動は、とても大切なことだと思います。その理由は、市を明るく、きれいにしながら、人との関係も築けるからです。「新居浜市のために」という思いで集まった人同士で関係を築き合えることで、市内で知り合いが増えていけたらうれしいです。また、新居浜市の環境がより良くなることは、新居浜市をより多くの人に知ってもらい、観光客が増えるきっかけにもつながります。このように、新居浜市を、もっと活気あふれる魅力的な場所にするためにも、ボランティア活動は大切だと考えます。

私は、この作文を書くことを通して、新居浜市を明るくするために、自分にできることを深く考えることができました。大好きで大切な、私たちの町「新居浜市」のために思いを巡らせることができてよかったです。

ちょっとしたことで、勇気を出して「おはようございます」、「こんにちは」、「ありがとうございます」、「ごめんなさい」を言ったり、ボランティア活動に参加したりすること…。自分のちょっとした言葉や行動が、新居浜市を明るくし、新居浜市の空気を変え、新居浜市を動かす一歩になるかもしれません。「言えない」ではなく、「言ってみる」。「できない」ではなく、「やってみる」。という気持ちを大切に、今の自分にできる「ちょっとの取り組み」を考え、実行していきたいと思います。

「新居浜市を明るくするために」

新居浜市立神郷小学校 6年 木村 謙之輔

ぼくは、新居浜を明るくするためには、どうすればいいのか三つ考えました。

一つ目は、ルールを守ることだと思います。ニュースなどで、犯罪の話題をよく耳にします。犯罪がなくなると、ぼくは平和にはならないと思います。犯罪を犯した人たちは、なぜこんなことをしているのだろう。

犯罪は、自分勝手な行動で人の体を傷つけてしまっていたり、人の心にも傷をつけて、悲しませてつらい思いをさせてしまったりしています。犯罪を行った側がいれば、被害者もいます。被害者の大切な物や大切な人をうばってしまっていて、すごく悲しくつらい思いをさせてしまいます。

自分からではなく、人からやれと言われても、犯罪は絶対だめだと思います。人からやれと言われたら、断る勇気を持つことが大切なことなんだと思いました。その他にも、困ったときには、周りの人たちを頼ることも大切なことです。新居浜市を明るくするために犯罪を行わないことはとても大事です。

二つ目は、いろいろな人と交流することが大切だと考えました。

交流を持つことで、いろいろな人達があいさつをしようと思ったからです。あいさつは元気が出ることだと学校で学んでいるので、あいさつをし合えるような元気いっぱいの新居浜市にしたいと考え、交流を持つことの大切さについて考えました。

他にも理由はあります。交流を持つことで、地域のお祭りなどももっと楽しくなると思います。地震などの自然災害が起こってしまった場合、避難場所で会った時、互いに声をかけ合えるような関係になっておくと、不安な気持ちも少しはなくなっていくと思います。交流を通じて、話したり笑ったりして、みんな笑顔で、笑顔いっぱいの楽しい新居浜市であってほしいと思います。だから、市全体で交流を持つことも、とても大切だと思いました。

三つ目は、市全体で協力し合うことです。

全体で課題を解決しようとしたときに、協力をするすることで、一人ではできないことでもみんなで協力し合えばいろいろなことが実現できるし、それを通して交流ができると思ったからです。また、みんなで同じことについてがんばっているとなんだか楽しく感じられることがあるからです。

いろいろな人と協力すると、課題の解決などに役立ち、新居浜市の環境のことなども解決できると思いました。

以上のことから、ぼくは、犯罪を犯さないこと、交流を持つこと、協力し合うことの三つが新居浜市を明るくするために必要なことだと考えました。

「自分の心、個性を豊かに」

新居浜市立泉川小学校 6年 谷 直樹

ぼくは、健全育成について考えました。人の心や個性はみんなちがいます。ぼくは、ボール投げが好きだけど、鉄ぼうやマット運動は苦手です。歴史は好きだけど、算数は苦手です。このように人の個性はいっぱいあります。それをひていしないことが自分の心や個性を豊かにしていくことだと思います。ほかの友達の悪口を言わないのは当たり前ですが、自分の苦手な所をひていしないのが大事です。ぼくは、友達の意見といじめ、健康について考えることにしました。

まず一つ目は、友達の意見を大切にするとということを考えました。友達が意見を言っているときは相手の目を見てうなづくことが大切だと思います。もしもほかの人と話していたら相手の人の心がきずつくかもしれないからです。ぼくもそんなことされたらきずつきます。その人が話した言葉をちゃんと聞いて相手が気持ちよく話してくれるのが大事なことでぼくは思いました。意見がちがうのも個性だと思います。次はいじめについて考えることにしました。いじめはだれもがいやなことです。だけど世界にはいじめで学校にいけなくなっている子供がいます。体を動かしたりできなくなって健康にも悪いです。だからいじめがなくなったらいいと思います。ですがぼくだけがそう思ったらいいのではなく、みんながいじめについて考えてくれたらいいと思います。もしもいやがっていたり相談されたりしたら迷うことなく注意したり先生やほごしゃに言うのが大切だと思います。最後は、健康について考えることにしました。早ね早起き朝ごはんこれが健康でいるカギだと思います。でも早くねたり早く起きたりすると決めていてもなかなかできませんだから毎日毎日こころがけたらいいと思います。もう一つあります。みんなといっしょに運動することです。今一番成長する時期のときこそみんなで楽しく遊んだりすることが心や健康を豊かにすることだと思います。

このように心や個性などを考える機会が必要だと考えました。自分のできることできないことも個性みんなもいろいろな個性を持っています。「健全育成」という言葉を大事にし、みんながなやみなく楽しく毎日の生活をあゆんでいけるように考えていきたいです。ですがぼく一人の力ではなくみんなにも力を借りなければなりません。みんながみんなを助け合えるようなことができたらいなと思います。人の個性や心を大事にしましょう。

「次へ」

新居浜市立泉川小学校 6年 眞鍋 一心

ぼくは、このまえ子ども太鼓台に乗りました。ぼくの地域の太鼓台です。でも、去年は行うことができませんでした。それは、人数が集まらないだろうということでした。小さい頃からぼくの家近くには子どもがいません。それなら、どうして今年はできたのか考えてみました。

あきらかに今までとちがうところが二つありました。

一つ目は、人の数です。大人から子どもまでたくさんの人が来ていました。中には、知らない人もいました。だから、

「どこの小学校から来たんですか。」

と聞いてみると、

「高津小学校から、家族と友だちできました。」

と答えてくれました。

「高津なのにどうして来たんですか。」

と聞くと、

「おじいちゃんがよんでくれたんです。」

と言っていました。他にも地域の人呼びかけてくれたおかげでたくさんの方が集まったんだと思います。

二つ目は大人太鼓の団員のかたたちがいたことです。太鼓台のことをおしえてくれたり、役決めをしてくれたりしました。なによりうれしかったことは、温かく声をかけてくれたことです。

「太鼓やってみたら。」

とお手本を見せてくれました。

「お花うまかったねえ。」

などと声もかけてくれました。その様子を周りの子どもたちも見てと中から、参加してきた子も五人ほどいました。

さらに、太鼓台の休けい中、『アイスおばあちゃん』と呼ばれるおばあちゃんがアイスの差し入れをしてくれました。

「今日はあついから早く食べなよお。」

と言って帰っていきました。

このように、その地域に子どもが少なかったら周りの人達に声をかけたり、大人の人達が協力して集まってくれたりしている、おかげだと気づきました。そして、参加してくれた人にもやさしく大切に思ってくれる地域の人達がいて、来年もこの先も続けていきたいと思える行事になりました。

これからは、ぼくもこの地域の団員として、そんなすてきな行事を守って続け

ていきたいと思いました。そのためにも、自分達で地域をもり上げれるように一生けんめいがんばっていこうと思いました。自分が地域の人として、今は無くなっていく行事も多いけれど、たくさんのすてきな行事を次へと受けついでいきます。

「地域のため、だれかのために」

新居浜市立泉川小学校 6年 高橋 優真

ぼくは、地域のために何かしたいなと思って、ボランティア活動に参加し始めました。

実際に参加してみてもまず思ったのが、想像以上のゴミの多さです。特に、タバコのすいがらやペットボトルなどが多く落ちていました。あまりにもゴミが多くて、とてもショックでした。これまでただ通り過ぎていた道も、ゴミ拾いをしていると、この街がかわいそうだと感じるようになりました。特に、植えこみのおくなどの見えにくい場所に置いてあると余計に心がいたみました。さらに、もう一つおどろいたのが最初はゴミ拾ってちょっと地味な気がする。と思っていたけれど、いざゴミ拾いを始めてしばらくするとこの校区をきれいにしたいなと思ってゴミを探している自分にとってもおどろきました。ここにも、あそこにも、こんな所にも、どんどん拾っていくうちにふくろの中のゴミが多くなっていて少し複雑な気持ちになりました。なんで、このゴミを捨てた人達は平気でゴミを捨てられるの。なんでポイ捨てしたのに平然とられるの。そう思うと、とても悲しかったです。ボランティア活動では、小さな努力がみんなのためになるということを学びました。清掃をしている時に地域の人からきれいにしてくれてありがとう。と声をかけてくれました。その言葉を聞くと自分のやったことはみんなの役に立つことだったんだなと実感しました。自分にできることは、道に落ちているゴミを一つずつ拾っていくことくらいしかできません。でも、その小さな努力一つ一つの積み重ねが、この泉川校区を通る人達の気持ちを明るくしていけるとい、本当のボランティア活動のすばらしさに気づかされました。もう一つ、ぼくは、この泉川校区でいっしょにくらしている地域の人みんなに明るく毎日を過ごしてもらうためにもやっぱり一番大事だと思うのは、「思いやり」だとぼくは思いました。

これからは、ただゴミを拾って泉川校区を清掃していくだけではなく、自分の活動が、だれかの役に立っているということをしっかりと頭に入れて活動したり、地域や地域の人達を明るくさせたい。などの自分の思を実感しながらボランティア活動に参加しようと思いました。最初は、意味があるのかと思っていました。なので、地域の人「ありがとう。」のおかげでこの考えをもつことができました。これからは、自分達から良い環境を作れる「健全な青少年」として積極的にボランティア活動に参加していきたいなと思っています。

「みりよくをこのまま」

新居浜市立船木小学校 6年 鴻上 大鉄

ぼくの住む新居浜市は、かつて別子銅山で栄えたあかがねの町です。勇壮な太鼓祭りの熱気や豊かな石鎚系の自然に囲まれたこの町が、ぼくは大好きです。でも、少し前に気になることがありました。それは、人と人との心の距離です。登下校のときに、すれ違う大人にあいさつをしても返ってこないときがたまにあります。かつて、別子銅山の開坑から発展を遂げた先人たちは、おたがいに助け合い、絆があったと思います。そこで、ぼくは今の新居浜を明るくするにはどうしたらよいか考えました。

一つ目は、自分からあいさつをすることです。あいさつは、相手の存在を認め、心を開く一番の身近な鍵だと思います。一言、

「おはよう。」

「こんにちは。」

というと、言った側も言われた側も温かい気持ちになります。特に、高齢者の方々や小さなお子さんに、積極的に声をかけることで、世代を超えた安心感が生まれます。新居浜の人は皆、明るくあいさつを返してくれるという評判が広まれば、町全体に活気が満ちてくるかもしれません。ぼくは以前、下校中、積極的にあいさつをいろんな人にしていたときに、笑顔であいさつをかえしてくれた人がいました。そのとき、あいさつをしてよかったと思いました。そして、心に残り、またあいさつをしようと思いました。こうした一人一人の小さなやさしさの積み重ねが新居浜を明るくするのだと思いました。

二つ目は、新居浜の伝統を誇りに思い、積極的に関わることです。例えば、太鼓祭りの時期だけでなく、自分たちの世代が地域の行事を支える姿勢を見せることで、大人たちも勇気づけられ、この街は明るいと感じてもらえるはずだと思います。街をきれいに保つことは、自分たちの心をみがくことにもつながっていくと思います。ただ、伝統を守ることだけでなく、きびしい環境の中でも希望を持ち、共に助け合って道を切り開く精神を持つことで、街が明るくなると思います。ぼくたち若い世代がその精神を受け継ぎ、街に笑顔の種をまいていけば、新居浜はもっと良くなるはずです。

ぼくはこれから、新居浜を明るくする一員として、まずは自分から元気なあいさつをすることを意識します。そして、誰に対しても思いやりを持って接し、この新居浜を誰もが住んで良かったと思えるような、光かがやく街にしていきたいです。

「子ども達にできる事」

新居浜市立船木小学校 6年 高橋 柚葉

私には、新居浜を明るい町にしていくために三つの考えがあります。

一つ目は、あいさつです。私の学校では、なかま委員会の五年生と六年生が中心となってあいさつ運動をしています。目を見てあいさつをしている人や気持ちの良いあいさつをしている人はまだまだ少ないです。

「おはようございます。」

と目を見て行う、気持ちの良いあいさつは、地域の人や友達がうれしくなるし、町全体が明るくなります。一人一人が気持ちをこめてあいさつをしていき、新居浜をもっと明るい町にしていきたいです。あいさつをするのが苦手な人は、朝起きて家族に、

「おはよう。」

と言ったり、外に出て近所の人に、

「おはよう。」

と言ったりすると、あいさつをされた人もそれを見た周りの人も温かくなり、一日を元気に楽しく過ごせるかなと思います。気持ちの良いあいさつを心がけてほかほかの町にしていきたいです。

二つ目は、協力することです。友達が困っていたら、

「だいじょうぶ。手伝うよ。」

と言うと、自然と地域の人にでも言えるようになります。そして、協力することができます。協力している姿を見ると、

「すてきだね。」

と思わず声が出ます。そんな姿を見ると「この町に住んでいてよかった。」と思えます。別の町に住んでいる人がそんな姿を見ると「この町の人たちすてきな。」と思ってもらえます。助けてもらおうと自然に、

「ありがとう。」

とふわふわな言葉が出てきます。そこで、まだよく知らない友達ともしゃべることができたり、いろいろな人とのコミュニケーション力が身に付きます。手伝った人もうれしいし、学校や地域、町へと親切の輪が広がっていき協力できます。

三つ目は、ごみ問題を解決することです。学校など、食べてはいけないところで食べてごみをそのままにしている人がいます。ごみがたくさんあると別の県や市から来た人は、「また来たいな。」とは思いません。だから、ごみのルールを守ってみんなが気持ち良く過ごせる町を目指していきたいと思います。自分が手本となり、ルールを守っていきます。おかしなどのごみは持ち帰ったり、おか

しを食べてはいけない公共施設などでは食べないというルールを守ったりするからこそ、明るい町になると思います。

あいさつをするのには勇気がいるけれど、まずは家族への「おはよう。」から始めて、友達や地域へ広げていきたいと思います。こつこつとルールを守って、自然とふわふわ言葉が出る新居浜を目指していきたいです。

「新居浜市から犯罪を無くすために」

新居浜市立惣開小学校 6年 早川 結也

ぼくは、新居浜市から犯罪を無くすためには、自治会などの地域の集まりに積極的に参加して、多くの人と知り合いになることが大切だと思います。

ぼくは、道を歩いていて、友達に会ったときには、「今日歩いていて友達と会った。」と記憶するけれど、これは知り合いだからであって、知らない人ではこのように記憶には残りません。つまり、多くの知り合いがいると、事件が起きた時などに多くの目撃情報が入ってきます。そうすると、すばやく犯人をつかまえることができます。すばやくつかまってしまうと分かると、犯罪者が減っていくと思います。

また、犯罪をした人が再犯をしないようにするためにも、地域の集まりに参加するのが良いと思います。みなさんは、「朱に交われれば赤くなる」ということわざを知っていますか。このことわざの意味は、人は関わる相手や環境によって、よくも悪くもなるという意味です。つまり、「良い人」の集まりに「元犯罪者」を参加させたら、「良い人」になると考えました。

ところで、ふだん歩いている時、知らない人にもあいさつをしている人は、あまりいないと思います。ぼくは、児童会の活動や校外学習に行く時など以外では、知らない人にはあいさつをしていません。しかし、ぼくはあいさつの輪を広げることは、新居浜市を明るくするためには大切だと思います。また、母の話では、あいさつをすると犯罪が減ることに繋がるそうです。

しかし、あいさつを知らない人にもするべきかという問題に対しては、「もしおかしい人だったらこわい。」などの意見も必ずあり、少し難しいと思います。それならば、知らない人がこわいのならば、知り合いを増やせばよいと思います。そのように知り合いを増やすためには、やはり地域の集まりに参加するのが良いと思います。

歩いている時に会えるのは、近くに住んでいる人が多いと思います。そして、近くに住んでいる人とかんとんに知り合いになる方法は、やはり地域の集まりだと思います。そして、集まりで知り合いを増やしていき、あいさつの輪を広げていきたいです。

ぼくは、この三つの理由から、新居浜市を明るく、犯罪者のいない街にするためには、自治会などの地域の集まりに積極的に参加し、知り合いを増やしていくことが大切だと考えます。

「新居浜市を明るくするために」

新居浜市立惣開小学校 6年 堀内 彩花

私は新居浜市をもっと明るく笑顔あふれる街にするためには、二つのことが大切だと思います。

一つ目は、あいさつをすることです。私の学校では、毎朝校門であいさつ運動をしています。私はあいさつ運動に参加する前までは、誰かにあっても、あまりあいさつをすることができませんでした。知らない人にあいさつをすることは怖く、もしあいさつをしても返されなかったらどうしようという思いが頭によぎり、なかなかできませんでした。しかし、あいさつ運動を始めてから、少しずつあいさつができるようになりました。なぜかという「おはようございます。」と声をかけた時に、「おはようございます。」とあいさつを返してくれるととてもうれしかったからです。返ってくるあいさつにもいろいろな種類があり、やはり元気よく笑顔で返してくれると、うれしかったです。最初は恐る恐るしていたあいさつも今では笑顔で元気よく声をかけることができるようになりました。

二つ目はSNSの使い方についてです。SNSは一度送信や投稿をすると、ずっと消えません。そのことをデジタルタトゥーと呼ばれることを学びました。ニュースでSNSによる、事件をよく目にします。SNSは、文字だけなので自分の思いとはちがう意見で相手に伝わる可能性があります。直接話すと、声のトーンや話し方、表情で相手に誤解されることはなかったことが、SNSでは誤解が生まれ、いじめや犯罪につながる場合があります。本やインターネットでこのことについて調べてみると、たった一言で誤解し悲しむ人が出てきていたので送信する前に一度見直してから送信したいと思いました。SNSは正しく使えば、同じ趣味の人とつながって、新しい知識を得ることができる一方で、写真などから個人情報が分かるようなものが入っていると取り消すことができず、まき込まれることもあります。SNSを利用するときは自分の事だけではなく、誰が見るか分からない、相手のことを考えてから利用することで問題が起こることが減ると思います。

私はあいさつをする、SNSの使い方を気をつけるという二つの事はどちらも相手の立場に立って考えるということだと思います。思いやりを持って接することや相手を思うことで笑顔あふれる街になると思います。まずは自分から気をつけて行動していきたいです。

「大好きな新居浜のために」

新居浜市立多喜浜小学校 5年 河端 友菜

わたしは、新居浜を明るくするために、何をしたらいいか、考えました。

まず一つ目は地域の人にあいさつをすることです。あいさつの声が小さいと、相手に伝わらなくなるので、大きな声であいさつをしたらいいと思いました。それに、あいさつをすると、『あいさつしてくれてうれしいな。』『きょうもがんばりたい。』と思えるので、あいさつは大切だと思います。あいさつはみんながうれしくなるおまじないの言葉です。だから、あいさつは自分からするようにしています。

次に、地域の活動についてです。わたしは、小さい時から祖父と祖母と一緒に、地区の清そう活動に毎年参加しています。用水路の中にたまったどろを外に出して、水が流れるようにしたり、用水路の周りがある草を引いたりしています。去年は、清そう活動に参加してくれた地区の人に、お茶を配りました。お茶を配った時に地区の人から「ありがとう。」と声をかけてもらったり、「大変だったけど町がきれいになってよかった。」と話したりしているのを聞いて、わたしもうれしくなりました。今年も参加して、町をきれいにしていきたいです。

また、地域を明るくするためにわたしが学校生活の中でできることは、運動会や音楽会を思いっきりもり上げることだと思います。なぜなら、運動会や音楽会は、家族だけではなく、地域の人也能参加できる行事だからです。運動会は、一生けん命走ったり、みんなで楽しくダンスをしたり、大きな声でおうえんしたりします。見に来てくれた家族や地域の人が「元気をもらった。」と言ってくれたり、楽しかったと思ってくれたりしたらうれしいです。

音楽会では、それぞれの学年が楽しくえんそうしたり、みんなで心を一つにして歌ったりします。聞いてくれた人が、わくわくして明るい気持ちになってくれたらうれしいです。そのために、毎日練習を一生けん命がんばりたいです。

新居浜には、十月に秋祭りがあります。それぞれの地区の太こ台が集まって、かきくらべをします。大きな太こ台がたくさん集まっているのを見ると、わくわくが止まりません。

わたしは、子どもなので太こ台をかつぐことはできませんが、大きな声で元氣におうえんをして秋祭りをもり上げたいです。秋祭りの後はゴミが多いので、わたしはゴミぶくろを持っていくようにしています。きれいで楽しい秋祭りにしていきたいです。

「わたしが考えるゴミ問題」

新居浜市立多喜浜小学校 6年 水口 紗寧

新居浜を明るくするために、私は社会のごみについて考えました。なぜかというと、学校の授業で、ゴミについて習ったからです。

私が初めてゴミの量がすごいと気づいたのは、「海っこ開き」です。海っこ開きは、多喜浜小学校の行事で、年一回、近くの海に行って生き物を観察したり、ゴミ拾いをしたりします。その海の近くを車で通ることもありましたが、小学校に入学して初めての海っこ開きで実際に浜辺に降りたときにとってもびっくりしました。なぜかというと、浜辺にゴミが山のようにあったからです。ゴミ拾いをがんばったけれど、すごい量でした。海の中もとても汚れていたり、少しにおいもしました。それから毎年行っているけれど、ゴミの量はいまままです。中にはレンジなどの家電もありました。今年で最後の海っこ開きですが、あの海のゴミが少しでも減ってほしいと思います。

次にゴミについて考えたのは、総合的な学習の時間の授業で、本やインターネットでゴミについて調べて発表するという学習をした時です。いろんなことを調べてから一、二分で発表できるようにまとめました。調べているうちに、ウミガメがあみにからまっている写真や海にゴミがたくさん浮いている写真などを見つけました。「ゴミが無くなればいい」「ウミガメを助けたい」と思いました。海はみんなのもので、みんなで大切にしないといけないと思います。みんなの発表を聞いていると、少しのゴミでも動物を苦しめているのかもしれないと思いました。

社会の授業でもゴミについて学習しました。京都の川について勉強した時のことです。その川は昔とても汚くて、ソファなどのいらなくなった家具が捨てられていたり、工場から使用した後の汚れた水が流れてきていたりしたそうです。たくさんの人が協力して、みんなで努力して今は改善されていました。とてもきれいな川になっていました。そのころには、日本の各地で環境が汚され、公害がたくさん起こったそうです。本当は防げたはずなのに、防げなかった病気です。これからはそういう病気が起きないように、みんなで気を付けていきたいです。

ゴミについて考えていて、思ったことがあります。一つ目は、ゴミはポイ捨てしてはいけないこと。自分が出したゴミは持ち帰るといいです。二つ目は、ゴミのルールはみんなのためにあるのだということ。みんながルールを守れば、気持ちよく過ごせるし、動物や環境が傷つくことを防げます。私は絶対にルールを守るし、できることがあればしようと思います。みんなにもゴミについて呼びかけていきたいです。

「安心・安全な生活」

新居浜市立大生院小学校 5年 曾我部 凜

私は、学校や地域で生活する中で、「みんなが安心・安全に気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいのだろう」と考えることがありました。毎日のあいさつや友達との関わり、地域の人との交流を通して、安心して過ごすために大切なことについて考えました。

私の地域には、いつも安心・安全にらせるように見守ってくれている地域の方がいます。その他にも登校時にわたしたちを守ってくれている「見守り隊」の方や先生たちもいます。そのおかげで登校時にだれもけがをしないし、安心して登校することができます。私は班長なので班のみんなと一緒に安全に学校まで登校する責任があると感じています。ですが、いつも見守ってくれているおかげでその責任が少し和らいで、安心して登校しています。でも私は人にたより、たよられる生き方をしたいので、してもらっただけじゃなくて自分にも何かできる事はないかなと思いました。そこで班長としてできそうなこととして思いついた事が三つあります。

一つ目は一列にならんで登校するということです。「そんなの当たり前じゃん」と思う人もいると思います。でもしゃべりながら登校するとつい二列になってしまっていることがあります。そのために私は声をかけて、班のみんなが毎日一列で歩けるようにしています。

二つ目は毎日笑顔であいさつをするということです。なぜ笑顔が必要かと言うと、相手が笑顔になると自分も自然に笑顔が出てくると教えてもらったからです。笑顔であいさつをして日ごろの感しゃを伝えたいなと思いました。

三つ目は人と人のすきまを開けすぎないということです。すきまを開けると声が届きにくいし、道を通るとき、他の班より時間がかかるからです。時間がかかれば見守り隊のみなさんにめいわくがかかると思っています。

私は、みんなが安心・安全に気持ちよく過ごすためには、地域の方や先生たちだけに任せるのではなく、自分たち一人ひとりが考えて行動することが大切だと思いました。毎日見守ってくださっている方々への感しゃの気持ちをわすれず、これからも班長としてみんなに声をかけながら、安全に登校していきたいです。そして、あいさつや思いやりを大切にして、みんなが安心してらせる地域にしていきたいと思います。

「あいさつ運動」

新居浜市立中萩小学校 6年 日野 遥風

あいさつは、いつでもどこでも誰にでもできる、一番身近なコミュニケーションです。私は、日々の生活の中で交わされるあいさつが、地域の絆を深めるために大切だと思います。

たとえば、

「おはよう。」

「さようなら。」

という言葉には、相手を大切にしたい気持ちが込められています。自分から積極的にあいさつをすることで、地域の人との距離が縮まり、温かい関係が生まれます。こうした交流が増えることで、町全体が活気づき、みんなが楽しく過ごせるようになります。

私たちは、地域を盛り上げる一員です。みんなのあいさつは、みんなを元気づけて、明るくする力を持っています。私は誰かを元気にできるような存在になりたいと思っています。私のあいさつを聞いて、

「今日も一日元気にがんばろう。」

と元気になってくれたら、とてもうれしいです。一人の力は小さくても、私の元気な声がきっかけとなって町中に笑顔のバトンをつないでいくような、そんな存在を目指して努力します。

たとえあいさつに対しての返事がなくても、あきらめずにあいさつを続けることが大切だと思います。いつか自分の思いが伝わり、笑顔が返ってくことを信じて、ねばり強く取り組んでいきます。あいさつから始まる新しい出会いや発見を楽しみながら、私はこれからも地域の一員として自覚を持ち、進んで行動できる人間に成長していきたいです。

私たちの住んでいる新居浜市が、「あいさつがあふれる温かい場所」であり続けるように、今できることを精一杯がんばります。そして、笑顔の輪をさらに大きく広げ、お年寄りから子どもまで、誰もが、

「この町に住んでいてよかった。」

と心からほこりに思えるような、すばらしい町、新居浜を作れたらいいと思います。

「SNS との上手な付き合い方」

新居浜市立中萩小学校 6年 眞木 悠磨

ぼくは、SNS をよく使っています。その中でもオンラインゲームをよくしていて、そこで良い人と出会ったり、反対に悪い人と出会ったりすることがあります。

具体的にいうと、良い人は何もしてこず平和に戦い、対戦が終わった後も「おつかれさまでした。」みたいな感じで、優しい言葉を使います。でも、中には試合中におおってきたり、「舐めプ」といってふざけておちょくってくるようなプレイをしてくる人もいたりします。そのことは、ぼくだけでなく、いろいろな人が不快に感じていると思います。終わった後もチャットとかで「どんまい。」とか「ざまあ。」とか言ってくる人がかなりいます。実際にぼくもそういう人と出会ったことが何回もありました。自分が楽しいからといってやっている人が多い気がするけど、自分だけが楽しいだけで、とても不快で悲しい気持ちになります。せっかく楽しくゲームしているんだから、相手のことを考えて楽しく対戦してほしいなと思います。

これ以外にも SNS はトラブルが起きる可能性が高いものです。ぼくは、個人情報発信しない。さっきのゲームの中でもあったけど、言葉づかいには気を付ける。誹謗中傷は絶対にしない。この三つは最低限のルールだと思っています。それでも、トラブルに巻き込まれることはあると思います。そんなことが起きた場合は、すぐに大人に相談したり、証拠を残したりすることが大切だと思います。そして、良くない人とはあまり関わらないようにもすることもいいことだと思っています。

SNS をはじめとするスマホに依存しすぎないことは大事です。スマホを持たずに外に出て遊ぶことで、自分の人間関係を大切にできます。スマホから離れることで心が落ち着いて、スマホ以外の世界に目を向けていくことができます。スマホがなくても生活できるぐらいを目指すのがちょうどいいのかなと思います。

このようにスマホや SNS はいろいろなことができる便利なものです。でもその中にはいろんな危険があることを忘れないようにし、みんながスマホばかり触るのではなく、実際のものに目を向けながら、リラックスすることを大切に生活することが、明るく楽しい毎日をつくることになると思います。

「あいさつの大切さ」

新居浜市立浮島小学校 6年 川口 咲希

「おはようございます。」

私の一日はこの言葉からスタートします。朝起きたら家族に、家を出たら、地域の人、友達、先生にあいさつします。朝の日課のようなものです。

五年生のとき、委員会活動の一つにあいさつ運動があり、毎朝校門に立って、登校してくる友達や先生にあいさつしました。

「おはようございます。」

と、自分よりも大きな声で返してくれる人もいれば、会しゃくだけの人もいました。笑顔の人もいれば、元気がない表情の人もいました。中には、全くあいさつを返してくれない人もいました。返してくれないと、やっぱり私は悲しい気持ちになりました。多くの人に自分から進んであいさつする経験を通して、明るく元気なあいさつは、朝、気持ちの良いスタートを切る大切なものだ気付くことができました。

また、私は、地域の人たちとあまり関わりがなく、どんな人なのか分からない人もいますが、登下校や遊びに行くときなど、出会った人には、あいさつをするよう心がけています。ところが、三年生のころ、あいさつのことで少しなやんだことがありました。学校から帰っているとちゅうに、近所のおばあさんが笑顔で、

「おかえり。」

と声をかけてくれました。私は、「家族でもないのに、『ただいま』って言うのはどうなのかな」と考えこんでしまい、結局「ただいま」と返せず、会しゃくしかできませんでした。帰ってからもそのことが気になっていた私は、家族に相談しました。すると、

「近所の人にも、『ただいま』でいいんだよと。」と、教えてもらいました。それを聞いて、私は、「あいさつを返したら、地域の人たちも良い気持ちになるな」「地域の人たちにも、うれしい気持ちになってほしい」と思いました。これからは、むねを張って「ただいま」と元気な声であいさつしたいです。

「今、声をかけていいのかな」とか、「返してくれなかったらどうしよう」「あいさつしていいのかな」と考えていると、自分からあいさつしづらく、迷ってしまうときがあります。けれど、あいさつし合うことで、友達といっしょに一日の良いスタートを切れたり、話すきっかけになったりし、さらに仲を深めることができます。また、地域の人とお互いの顔や存在を知ることができ、安心してくらすことにつながるのではないかと考えます。「あいさつが行き交う町、みんなの笑顔があふれる町にしたい」そのために、私は今日も自分からあいさつをして

いきます。

「おばあさんからもらった目標」

新居浜市立浮島小学校 6年 澤田 和花

これは、私が学校に登校していたときの話です。いつもの道を歩いていたら、おばあさんが草をぬいていました。私は「朝から大変だな」と思いつつ、

「おはようございます。」

と、声をかけました。するとおばあさんは、

「おはよう。」

と私に返してくれた後、またすぐに作業にもどりました。そのすがたを見て、私はまた学校へと歩き始めました。「なんでみんなが使う道なのに、おばあさんが草をぬいているんだろう」と思いながら。

次の日、私はねぼうしてしまい、急いで家を出ました。とちゅうで、その日も草をぬいているおばあさんと出会いました。急いでいた私は、あいさつをせず、通り過ぎました。けれど、その後ふと思いました。「昨日とは十五分くらい家を出る時間がちがったのに、今日もおばあさんに出会ったということは、長時間草ぬきをやっているってことかもしれないから、また明日、あいさつとお礼を伝えよう」と。

しかし、次の日、いつもの道を通って学校へ向かったけれど、おばあさんはいつものところにいませんでした。代わりに、前までいっぱい草が生えていて通りづらかった通学路が、とても通りやすく、きれいな通学路に変わっていました。だれかの場所ではない、みんなが使う道です。だれが草をぬくって、決まっています。そんな中、おばあさんが進んで草をぬいてくれました。私がおの日、良い気持ちで学校に行けたのは、おばあさんが草をぬいてくれたからです。私は、おばあさんに会うことができず、残念でした。心の中で「ありがとうございます」と、お礼をして学校へ向かいました。

私は、おばあさんにすてきな印象を持ちました。だから私も、おばあさんみたいに、だれかに良い印象を残して、それをみんながくり返して、良いであふれる町にしたいと思いました。そのために、元気良く明るいあいさつを自分からしたり、ごみや落としものがあれば拾ったりしたいです。最近できた、私の目標です。あのおばあさんからもらった目標です。私はやっと、みんなの道を、おばあさんがきれいにしている理由が分かったような気がしました。